

多くの観光客が訪れる新穂高における安全対策について

(株)高田組 右俣谷第2号床固工及び歩道橋上部補償工事
(工期：平成20年9月9日
～平成21年12月10日)
現場代理人 竹田 淳
監理技術者 竹田 淳



1. はじめに

蒲田川上流の新穂高には奥飛騨を代表する観光名所、新穂高ロープウェイがあります。この新穂高を流れる右俣谷・左俣谷では新穂高溪流保全事業として、数年前から砂防堰堤や護岸等の施工を実施しています。本工事箇所は、この新穂高ロープウェイの目の前に位置する為、観光客の安全対策に十分留意しながら工事を進めて行く必要がありました。



【多くの人で賑わうロープウェイ乗場周辺】

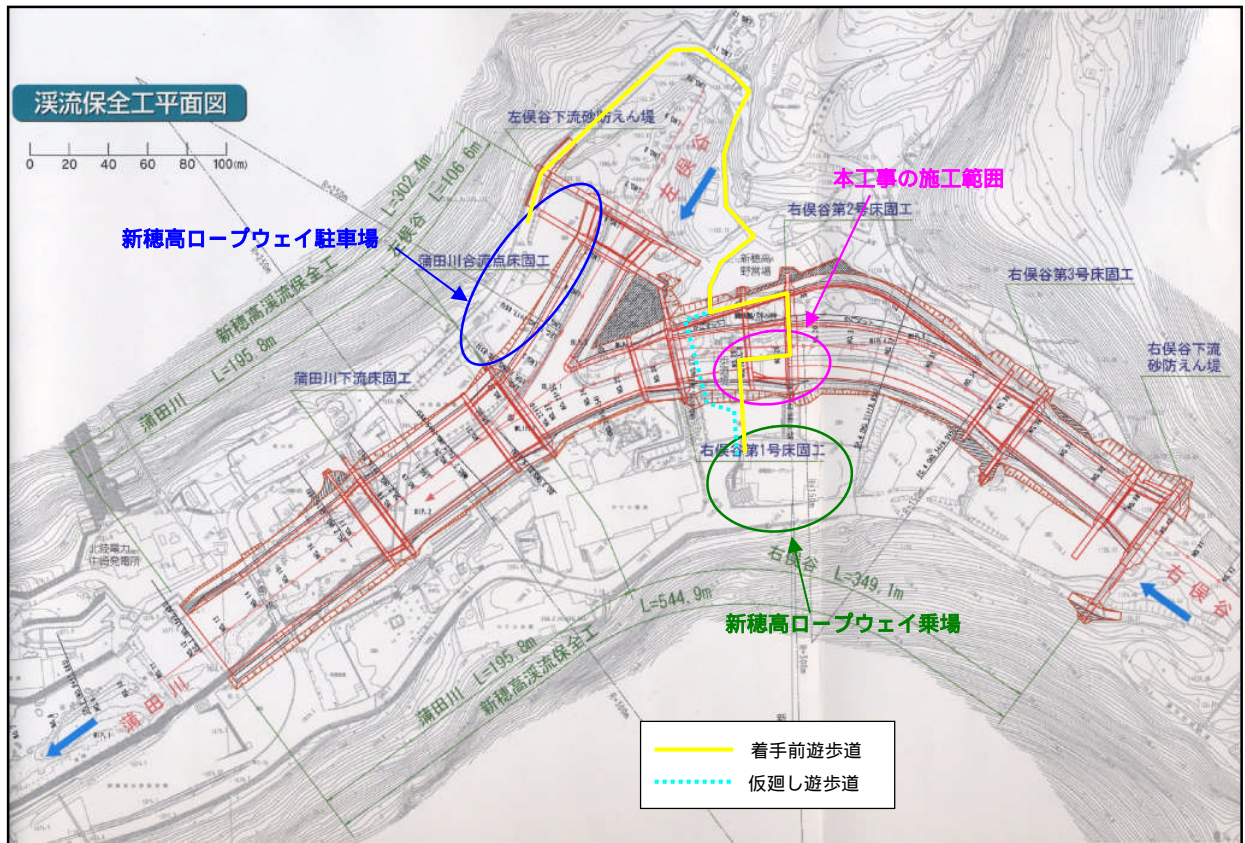
2. 新穂高溪流保全事業の概要

新穂高溪流保全事業とは、新穂高地区を流下している蒲田川および、その支流の右俣谷、左俣谷は川幅が狭いうえに、宿泊施設等が近接しているため土砂流出による被災の危険性が高い地区となっているので、地域の山岳景観、親水性等に配慮しつつ、土砂災害に対する安全性の確保を図る為川幅を広げ、異常な流出土砂をスムーズに下流に流下させるとともに、上流域の流出土砂の抑制を図る土砂災害防止施設（溪流保全工）の整備工事であります。

本工事は、この事業の一部である2号床固工の施工及び歩道橋の架け替えが主たるものです。



【異常出水時の右俣谷】



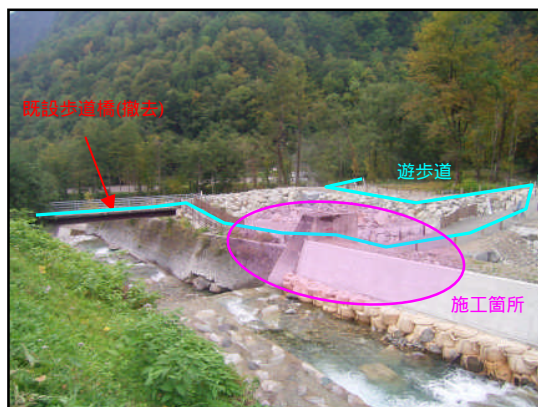
3. 観光客に対する安全対策

観光客に対する安全対策として本工事現場で実施した事項を、

- ・ 工事エリアと観光客エリアの区別
- ・ 工程の調整
- ・ 日々の安全対策としてまとめました。

(1) 工事エリアと観光客エリアの区別

工事着手時は、工事現場内に新穂高ロープウェイ駐車場から乗場へのアクセスルートとなっている遊歩道が横断していた為、発注者と協議をして施工範囲外に仮橋を設置し遊歩道を迂回させ、工事エリアと観光客エリアの区別を明確にした。



【着手前】



【施工中】

その際の、工事エリアと遊歩道を仕切る材料は、間伐材の丸太や皮板を使用し周辺環境に調和するものとした。



【遊歩道の状況】

歩道橋架設時のクレーンヤードは、当初冬季間の観光客が少ない時期に新穂高ロープウェイ乗場の駐車場を借地する事を予定していましたが、諸事情により夏場の多客期に歩道橋を架設することと変更になった為、観光客の立入らない河川内に盛土等を行いクレーンヤードとして架設作業を行った。



【桁の架設状況】

(2) 工程の調整

新穂高地区は、ゴールデンウィーク・夏休み・紅葉時期の土曜日・日曜日・祝日は観光客で大変混雑するので、極力作業を行わない工程とした。

左岸側の歩道橋下部工の施工を行うときは、新穂高ロープウェイ乗場の駐車場を通行する為、観光客の少ない1月末～3月上旬に施工するよう工程を調整した。夏場等の多客期は平日であっても、大きな資材を現場に搬入するのは、早朝に行うようにした。

(3) 日々の安全対策

現場内の安全巡視に加え、安全巡視日報に『観光客対策』欄を設け、チェックシートに基づき遊歩道や仮橋の点検を、作業開始時(朝)・作業中(昼)・作業終了時(夕)に実施した。

ゴールデンウィーク・お盆・年末年始等の長期休暇中は、新穂高地区で設置している工事連絡会で連携をとり毎日、現場内や周辺道路等の巡視を行った。

極力観光客と、工事用重機・車両が面しないよう作業を行ってきたが、どうしても対処できない時には、現場内に歩行者誘導員を配置し作業を行った。



【歩行者誘導員】

台風等の異常気象時には、周辺観光施設と連携をとり仮橋通行止めの処置をとり、万が一に備えた。



【仮橋の通行止め】



【仮橋の強風対策】

4. まとめ

砂防工事は割合、第三者に接して工事する事は少ないですが、ここ新穂高では常に第三者と係りながらの工事となります。現場で作業する人全員が協力してくれたおかげで、観光客の方々の事故はもちろん現場内での事故もなく工事完了を迎えることができました。この場をおかりして、ご指導いただきました監督職員の皆様と、工事関係者の皆様に感謝申し上げますとともに、工事によってご迷惑をおかけした近隣観光施設の皆様にお礼申し上げます。